

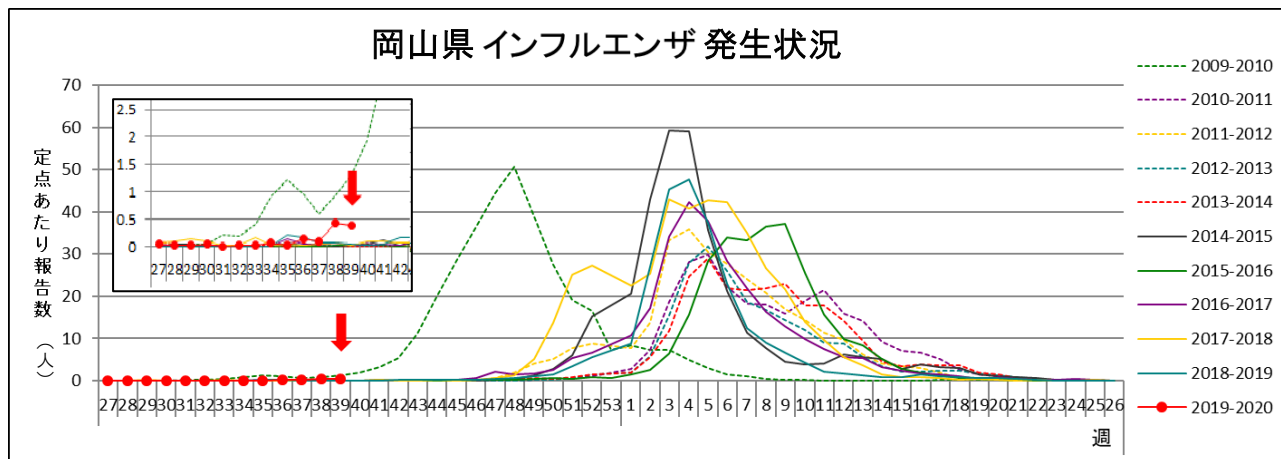
インフルエンザ週報 2019年 第39週 (9月23日～9月29日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で32名（定点あたり0.38人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、ありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者1名の報告がありました。

【第40週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました（9月30日）。



インフルエンザは、倉敷市で14名、岡山市で10名などの報告があり、県全体では32名（定点あたり報告数0.38人）の報告となっています。今シーズン（2019/9/2～）は、第36週（9/2～9/8）から散発的に患者が報告され、第38週（9/16～9/22）には0.43人と、例年の11月下旬頃に相当する定点あたり報告数となりました。全国の定点あたり報告数は、第37週（9/9～9/15）が1.17人、第38週（9/16～9/22）が1.16人と、すでに流行開始の目安とされる定点あたり報告数1.00人を超えている状況です。都道府県別では、沖縄県で定点あたり報告数が非常に多く（52.22人）、九州地方と東京都など10都県で定点あたり報告数1.00人を超えています。インフルエンザの本格的な流行は、通常12月に入ってからといわれますが、岡山県ではすでに例年の11月下旬頃に相当する定点あたり報告数であることに加え、入院患者についても、第39週までで5名の報告があるなど、流行が早まるおそれがあります。帰宅後や食事前の手洗いの励行等、感染予防に努めましょう。

[IDWR 速報データ 2019年第38週（国立感染症研究所）](#)

[インフルエンザ Q&A（厚生労働省）](#)

[インフルエンザ 関連情報 2019/20 シーズン インフルエンザワクチン株（国立感染症研究所）](#)

1. 地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	32	↗	備 中	患者数	4	→
	定点あたり	0.38			定点あたり	0.33	
岡山市	患者数	10	↘	備 北	患者数	0	↘
	定点あたり	0.45			定点あたり	0.00	
倉敷市	患者数	14	↗	真 庭	患者数	0	↘
	定点あたり	0.88			定点あたり	0.00	
備 前	患者数	4	↗	美 作	患者数	0	↘
	定点あたり	0.27			定点あたり	0.00	

【記号の説明】前週からの推移 ↑：大幅な増加 ↗：増加 →：ほぼ増減なし ↓：大幅な減少 ↘：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

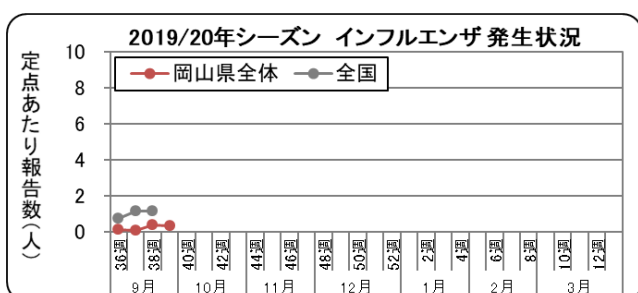
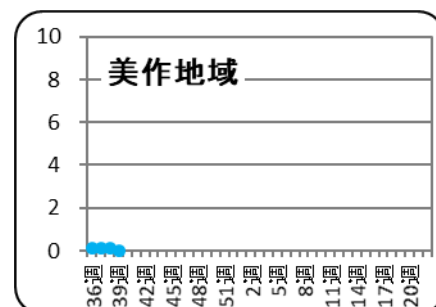
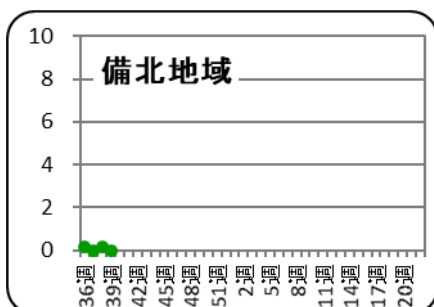
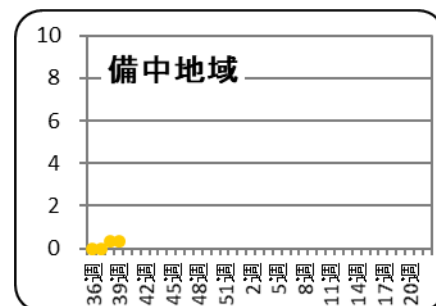
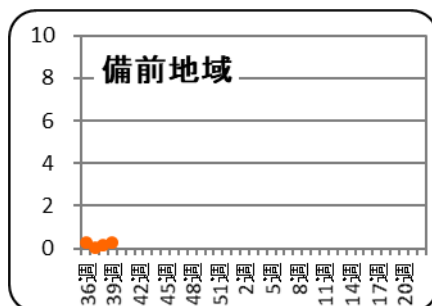
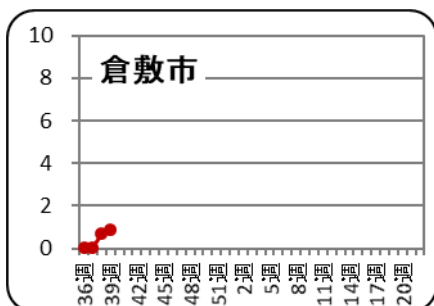
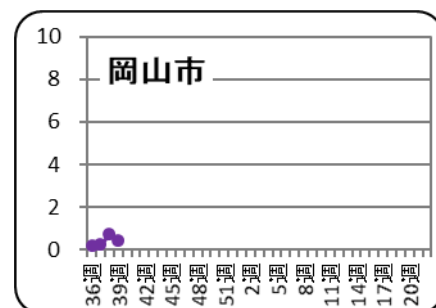
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0

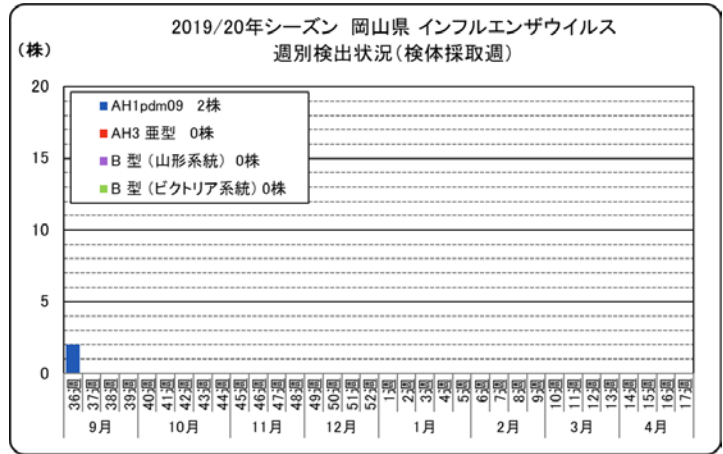


全国集計 2019 年第 38 週（9/16～9/22）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 1.16 人となり、前週（1.17 人）とほぼ同数でした。
 都道府県別では、沖縄県（52.22 人）、佐賀県（2.03 人）、宮崎県（1.63 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。10 都県で流行開始の目安（定点あたり 1.00 人）を超えました。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）](#)

2. インフルエンザウイルス検出状況

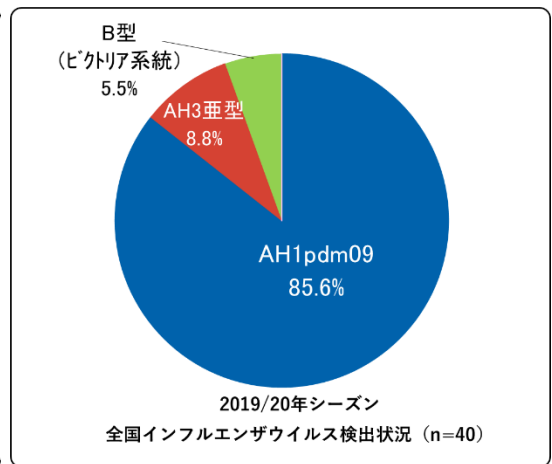
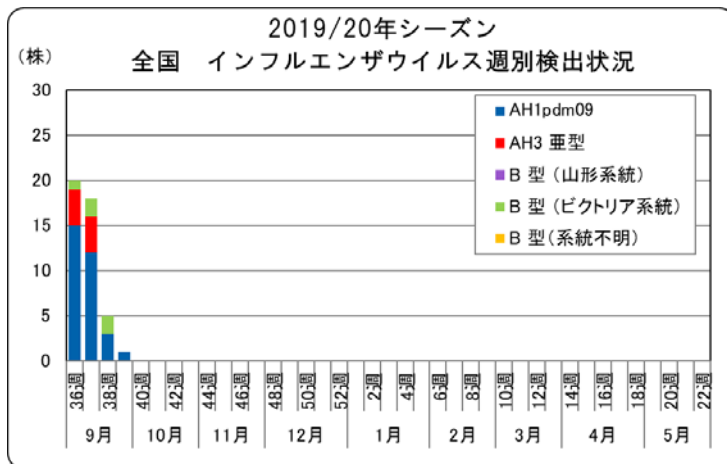
2019年第39週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは2株で、全てAH1pdm09です。



ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2019年第36週(9/2~9/8)	2019/9/4	備前	30代	男	
インフルエンザウイルスAH1pdm09	2019年第36週(9/2~9/8)	2019/9/7	美作	小学生	女	

今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09が31株、AH3亜型が5株、B型が4株(全てビクトリア系統)となっています(10月1日現在)。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報 \(国立感染症研究所\)](#)



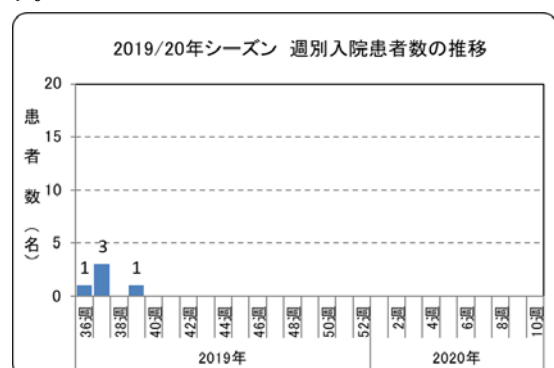
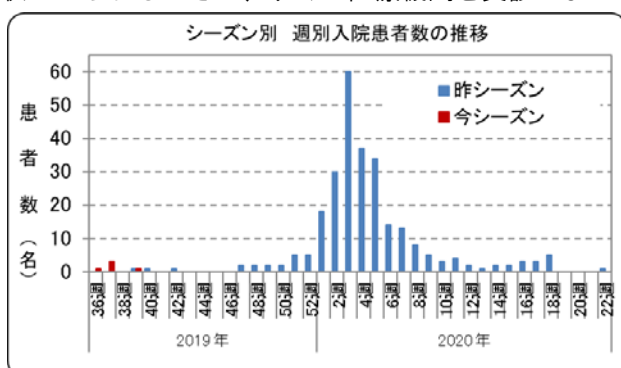
3. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業は、ありませんでした。

4. インフルエンザによる入院患者報告数 (県内基幹定点 5 医療機関による報告)

インフルエンザによる入院患者は、1名(15~19歳)の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第 39 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数					1								1
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*					1								1
頭部MRI検査(予定含)*					1								1
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず													

* 重複あり

【2019年9月2日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数			1	1	1				1			1	5
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*					1								1
頭部MRI検査(予定含)*					1								1
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず			1	1					1			1	4

* 重複あり

◆◆インフルエンザの予防接種はお早めに！◆◆

インフルエンザのワクチンによる効果が現れるまで、2週間程度かかります。

例年本格的な流行がはじまる 12月中旬までに、予防接種を済ませることをお勧めします。

定期予防接種の対象者は、積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方も、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

- 予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- 年により、流行するウイルスの型が変わるため、毎年接種する必要があります。
- 13歳以上の方は、1回接種を原則としています。

定期予防接種対象者

* 65歳以上の方

* 60～64歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障がいがあり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障がいがあり、日常生活が非常に困難な方

◎ワクチンの在庫および予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

(特に今シーズンは、例年に比べ全国的に早い流行となっているため、ワクチンの供給が間に合っていない場合も考えられますので、必ず事前に問い合わせるようにしてください。)

◎定期予防接種については、接種できる期間が市町村によって異なりますので、お住まいの市町村担当課にお問い合わせください。

